

# 牛久：学校周辺に見る自然

第2号

ひたち野うしく小学校

2010年4月26日発行

## くひたち野うしく小、フェンス沿いの観察～その2. キク科の仲間>

第1号は、タンポポのお話でした。そこではタンポポの”花”という言い方をしていましたが、正確には花の集まり(花序かじょといいます)。黄色の花びらのように見える1枚1枚を、虫めがねで観察してみましょう。するとそれが、1枚の花びらと1本の雌しべ、それをとり巻く雄しべ、白い毛のようなガクからなることが分かります。これが何百個と集まったのがタンポポの”花”。「頭状花とうじょうか」と呼ばれ、キク科植物の花の特徴でもあります。観察中に「花をよ〜く見てごらん。何の仲間だと思う？」と質問したのも、そこに目を向けてほしかったからなのです。

それでは、今回観察された雑草の中から、キク科の仲間を集めてみましょう。



### ①ハハコグサ (母子草) : 左

春の七草の「ごぎょう」というのはハハコグサのこと。やや似た雑草で、チチコグサ(父子草)というのもあります。

### ②ハルジオン (春紫苑) : 中

よく似た雑草でヒメジョオンというのがあり、どちらもヨーロッパから入ってきた植物で、冬は”ロゼット”といって、タンポポのように地べたに葉を広げた状態でいます。春になって茎が立ち成長して花をつける頃になると、ヒメジョオンではロゼットの葉が消えてしましますが、ハルジオンでは写真のように残っています。その他、よく見るといろいろな違いがあるのですが、興味のある人は図鑑等で調べるか、理科室まで聞きに来てください。そして必ず、実物で確認しましょう。

### ③ノボロギク (野檻ぼろ樓菊) : 右

おなじみの雑草ですが、これもヨーロッパから入ってきた植物(こういうのを帰化植物きかといいます)。花が咲くようすがぼろきれの集まりのように見えるのでついた名だそうです。

写真の他、ノゲシ、オニノゲシ、ブタナ、コウゾリナなども観察されましたが、その紹介は他校での観察報告に譲ることにしましょう。

【理科支援員・宮内】